学校番号	３０２６

令和８年度 グローバル探究科

教科	（学）グローバル探究科	科目	（学）日本語・日本文化探究	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	特定の教科書を使用せず、幅広い時代の日本の文章を対象とする。						
副教材等	十訂版 体系古典文法（数研出版）・五訂版 体系古典文法準拠ノート（数研出版） 五訂版 漢文必携（桐原書店）・五訂版 漢文必携 チェックノート基本編（桐原書店） 四訂版 読んで見て聞いて覚える重要古文単語 315（桐原書店） パワーマックス共通テスト対応模試 国語（Z-KAI）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

本校でグローバルな学びを続けてきたみなさんにこそ、本科目を通して日本語・日本文化について改めて考えてほしいと願います。幅広い時代の作品や、様々な形式のテクストに触れながら、日本語がもつ特質について考え、学びを深めます。既存の解釈に頼ることなく、古典作品を自立して読むことができるようになることを目指します。そのためには文語文法の知識を獲得することが不可欠です。また、口語文法への関心・疑問を持ちながら、近現代小説・評論文を読みます。形成されている文意はどのようなものか、なぜそのような文意が形成されるのかを考えましょう。

２　学習の到達目標

・日本に残る様々な言語作品から日本の文化や美意識を自らの力で学びとることができる。
・様々なテクストに触れながら、日ごろ無意識に使用している口語文法について再考する。
・英語や翻訳作品との対比を通して浮き彫りになる日本語・日本文化の性質について深く考える。
・日本語のもつ特質が、文意の形成にどのように影響しているかを探究する。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a　知識・技能	b　思考・判断・表現	c　主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	古典だけではなく、日本語として用いられている語句の意味や用法を理解し、幅広く日本語で書かれた文章を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、幅広い時代の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。	古典だけでなく、様々な時代やスタイルで現れる日本語の文章に興味をもち、多角的な視点から言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。

学習のまとまりごとに、学習内容に応じて、ポートフォリオ、レポート、プレゼンテーション等を評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。

4　学習の活動

学期	単元の学習	単元の評価基準	評価方法
1学期	【日本語（文語文法）・古典】 ・文語文法の復習 ・平安期作品 【日本語（口語文法）・現代文】 ・明治期小説	a 文語文法及び口語文法や漢字の知識を身につける。言葉がもつ働きに改めて気づくことで、言葉を自覚的に用いるようになる。 文語文法：古典特有の表現を理解することができる。 口語文法：文章の要旨や要点を正確に把握する。 b［読］目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったりして自分の考えを深め、発展させている。 b［書］通時的な文章を通して、その変化の変遷や比較について記述することができる。 c 自ら進んで日本語、日本文化に対する考えを深め、探究していく姿勢をもっている。	・行動の観察及び分析 ・記述の点検 ・確認テスト ・発表等のパフォーマンス
2学期	【日本語（文語文法）・古典】 ・鎌倉期古典 ・江戸期古典 ・和歌・歌物語 【日本語（口語文法）・現代文】 ・大正・昭和小説 ・平成期小説	a 文語文法及び口語文法や漢字の知識を身につける。言葉がもつ働きに改めて気づくことで、言葉を自覚的に用いるようになる。 文語文法：古典特有の表現を理解することができる。 口語文法：文章の要旨や要点を正確に把握する。 b［読］目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったりして自分の考えを深め、発展させている。 b［書］通時的な文章を通して、その変化の変遷や比較について記述することができる。 c 自ら進んで日本語、日本文化に対する考えを深め、探究していく姿勢をもっている。	・行動の観察及び分析 ・記述の点検 ・確認テスト ・発表等のパフォーマンス

3学期	・非文学テクスト	a 文語文法及び口語文法や漢字の知識を身につける。言葉がもつ働きに改めて気づくことで、言葉を自覚的に用いるようになる。 文語文法：古典特有の表現を理解することができる。 口語文法：文章の要旨や要点を正確に把握する。 b［読］目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったりして自分の考えを深め、発展させている。 b［書］通時的な文章を通して、その変化の変遷や比較について記述することができる。 c 自ら進んで日本語、日本文化に対する考えを深め、探究していく姿勢をもっている。	・行動の観察及び分析 ・記述の点検 ・確認テスト ・発表等のパフォーマンス

※表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※年間の各領域時間数

・話すこと／聞くこと　…　（　　）時間
・書くこと　…　（　40　）時間
・読むこと　…　（　30　）時間